



ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、コンセルトヘボウ管など最高峰のオーケストラに次々と客演し、現代最強の指揮者とも評されるパーヴォ・ヤルヴィ。音楽一家に育ち、世界から賞賛を浴びる名指揮者へと上り詰めた名匠のルーツに迫る。

Paavo Järvi

パーヴォ・ヤルヴィ

Die Deutsche Kammerphilharmonie Bremen

父ネーメ・ヤルヴィから受け継いだ最強のDNA

古くからの音楽ファンにとってヤルヴィと言えば、何と言ってもネーメ・ヤルヴィ①。1937年にエストニアに生まれ、ロシアの名匠ムラヴィンスキーに学び、存命中の作曲家ショスタコーヴィチ②からも絶対的な信頼を得ていたヨーロッパ屈指の名指揮者だ。ネーメ・ヤルヴィはベルリン・フィルと親密な関係を築いたのをはじめ、世界中のオーケストラから愛され、カラヤンに匹敵する膨大なレコーディングを残している。

そんな世界屈指の名指揮者を父に、1962年に生まれたのが長男のパーヴォ・ヤルヴィ。地元タリンの音楽院でたぐい稀な音楽性を育んだパーヴォは、18歳で父ネーメと共にアメリカへと渡ることになるが、エストニアでの青年期には、父に連れられて作曲家ショスタコーヴィチとも面会③。ソビエトの社会主義体制下で苦悩する作曲家を目の当たりにし、それがこの作曲家への強い思い入れにつながっている。



① 父ネーメ・ヤルヴィ [1980年代]
世界中で愛される指揮者



② 作曲家ショスタコーヴィチ [1950年頃]
父ネーメ・ヤルヴィと深い親交があった



③ ショスタコーヴィチと父ネーメ 左下がパーヴォ少年 [1973年]

パーヴォ・ヤルヴィ [指揮 / 芸術監督] ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 **好評発売中**
11月26日(土) 14:15 開場 15:00 開演 アークホール S席¥9,000 A席¥8,000 B席¥7,000 P席¥6,500
曲目/ブラームス：交響曲第3番 へ長調 op.90、交響曲第1番 ハ短調 op.68 ※未就学児の入場はご遠慮ください。

バーンスタイン、ショルティら名指揮者の薫陶

アメリカに渡ったパーヴォは、音楽院でさらに研鑽を積みつつ、ロサンゼルスで20世紀最大の指揮者レナード・バーンスタイン④に学ぶ機会を得る。音楽に苦悩するショスタコーヴィチの姿とは対照的に、指揮台の上で泣いたり、笑ったり、飛び跳ねたりと、まるで俳優のように全身で音楽を表現するバーンスタインに大きな衝撃を受けたパーヴォは、音楽の自由なあり方について計り知れないほどの影響を受けた。

さらにハンガリーに生まれながらアメリカで絶大な人気を誇ったオーマンディ⑤とショルティ⑥という二人の巨匠に薫陶も受けたパーヴォは、指揮者として活動を開始すると瞬く間に頭角を現し、2001年ついにアメリカ屈指の名門シンシナティ響の首席指揮者に就任する。さらに2004年には、現在までポストを務めるドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の芸術監督に就任、鮮烈なベートーヴェン演奏で世界中の注目と絶賛を集めるようになる。



④ レナード・バーンスタイン
全身で音楽を表現しパーヴォに計り知れない影響を与えた



⑤ ユージン・オーマンディ
フィラデルフィア管を40年にわたって率いた名指揮者



⑥ ゲオルグ・ショルティ
抜群のリズム感でシカゴ響を世界水準に育て上げた巨匠

DNA 最強の遺伝子を受け継ぐ 現代最高の指揮者



⑦ ドイツ・カンマーフィルとはブラームス・プロジェクトが進行中

ヨーロッパ、日本をも席捲する最強指揮者へ

ドイツ・カンマーフィルとのベートーヴェンで評価を確立して以降のパーヴォの活躍は、「現代最強」「オーケストラ界の帝王」と評されるほどに凄まじい。

2006年にフランクフルト放送響の首席指揮者に就任したかと思うと、2010年にはフランスの最高峰、パリ管弦楽団の首席指揮者をも兼務。昨年2015年、日本が誇るNHK交響楽団の首席指揮者に就任すると、その名演奏が新聞や雑誌、テレビなどでも大きく取り上げられヤルヴィ・フィーバーを巻き起こしている。

このような名門オケの首席指揮者の激務を縫って、さらにウィーン・フィル、ベルリン・フィル、コンセルトヘボウ管、ニューヨーク・フィル、マリンスキー歌劇場管などの超一流オケにも次々と客演。ベートーヴェンやシューマンの交響曲全集などのレコーディングも絶賛を浴びるなど、破竹の快進撃が続いている。

現在、ヤルヴィが家族のように愛し信頼するドイツ・カンマーフィルと進行中のブラームス・プロジェクト⑦は、21世紀の演奏史の輝かしい1ページになることだろう。

C O L U M N

2015年9月にN響の首席指揮者に就任したパーヴォ・ヤルヴィ。その数カ月前にN響の指揮台に招かれたのが、間もなく80歳を迎える父ネーメだ。自分が何度も共演を重ね、世界屈指の実力を誇るN響の首席指揮者に自慢の息子が就任するのだから父は嬉しかったのだろう。リハーサルの際、楽団員に「私がパーヴォのオヤジのネーメです」と上機嫌で挨拶したとかしなかったとか。ヤルヴィ親子はこれからも日本で多くの名演を聴かせてくれるだろう。



© Estonian Public Broadcasting